

## 外為短観レビュー ミセスワタナベのドルショート

### ◆ミセス・ワタナベの行動に変化

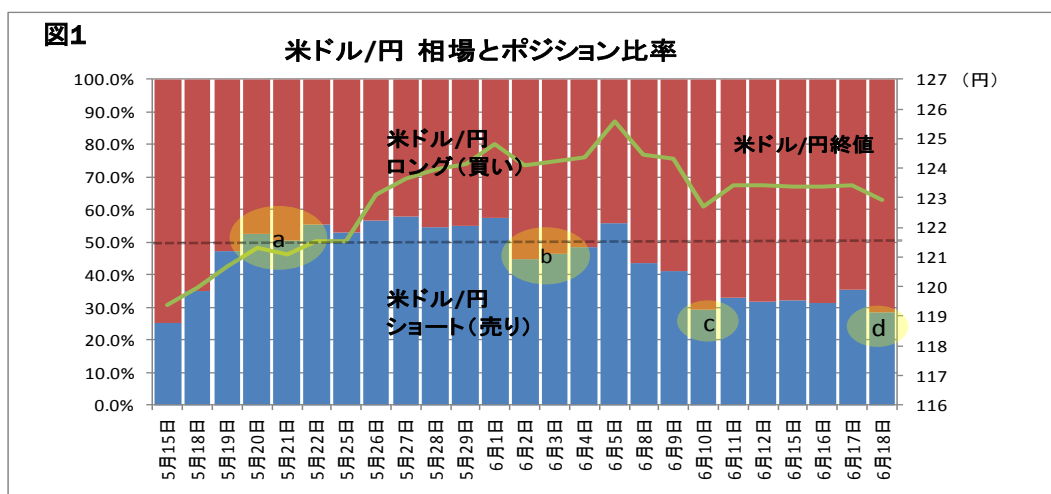
5月下旬、本邦個人FX投資家の米ドル/円のポジションに大きな変化が見られた。外為どっとコム社は前日NYクローズ時点の顧客のポジション状況を公表しているが、米ドル/円のポジションは5月20日時点でショートポジション(売り残高)が、ロングポジション(買い残高)を上回る「ネットショート」になった。外貨投資と言う観点から、円を売って米ドルを買うのが個人投資家(=ミセス・ワタナベ)の一般的な投資スタイルとされ、実際に米ドル/円のポジションは少なくとも5月半ば以前の過去3年間は「ネットロング」の状態が続いていた。なお、この「ネットショート」への転換については、日本経済新聞が21日付けの電子版で『異例の50億ドル』ミセス・ワタナベ、121円台で巨額の売り」と報じるなど各種メディアに取り上げられ、一部で大きな注目を集める事になった。

### ◆初のネットショートに

図1は、米ドル/円相場の日足ラインチャート(右軸)にミセスワタナベのポジション比率(左軸)を重ねたグラフである。グラフ内の薄黄色部分aで示したように、米ドル/円相場が121-122円台に上昇するタイミングでショートポジションが50%を越えて「ネットショート」に転じた事がわかる。その後、5月末にかけて米ドル/円相場が124円台に向かって上昇する中においても「ネットショート」の状態が続いていたが、6月に入り米ドル/円が125円台にワンタッチして反落すると解消に向かい「ネットロング」の状態に戻りはしたが、ポジション比率はそれぞれ50%近くで拮抗したままであった(図1b)。

### ◆割高感による逆張り

121-122円台でショートポジションが増加した

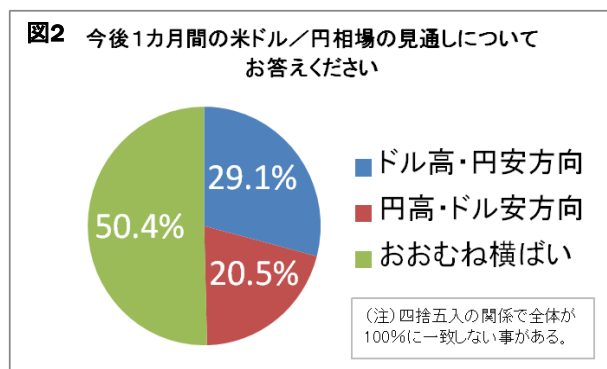


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

背景には、ミセスワタナベの相場観が影響していたと見られる。外為どっとコム総合研究所が、外為どっとコム顧客を対象に毎月行っているアンケート調査によると、5月12-19日に実施した調査において「今後1カ月の米ドル/円相場の見通し」に対する質問に「おおむね横ばい」と答えた向きが過半数を占めた(図2)。調査期間中の米ドル/円相場が118-120円台でもみ合っていた事を考えると、「円高・ドル安」を予想した20.5%のFX投資家と「おおむね横ばい」とした向き(50.4%)の合計である70%超のFX投資家が、121-122円台の米ドル/円に割高感を抱いていた可能性が濃厚だ。そうした中、彼らがロングポジションを手仕舞うだけにとどまらず、逆張りのようなショートポジションの構築に動いた事は容易に想像できる。

#### ◆反落局面でも逆張り

6月に入り、米ドル/円相場が125.853円まで上昇して13年ぶりの高値を付けた5日には一時的に「ネットショート」の状態に戻ったが、それ以降



の相場反落局面では「ネットロング」の状態に戻っている。10日に発生した「黒田ショック(日銀総裁による円安けん制的な発言)」による123円割れの局面では、ショートポジション比率が29.4%まで低下して「ネットロング」が拡大(図1c)。ここに至ってようやく5月後半に構築された121-122円台のショートポジションがある程度整理されたものと考えられる。また、米ドル/円相場が再び122円台に沈んだ18日には、ロングポジション比率が71.7%まで拡大するなど、ミセス・ワタナベが押し目買いのチャンスとばかりに米ドル買い・円売りに動いた様子が覗える(図1d)。16-17日に行われた米連邦公開市場委員会(FOMC)が、思った程タカ派的ではなかったとの市場の見方に逆らうような逆張りではあるが、「125円では高く買えない」と感じていた向きが少なくなかったという事だろう。

#### ◆想定レンジを上方スライド

こうしてみるとミセス・ワタナベの逆張りスタイルは、よほどの事がなければ変わる事はなさそうに思える。以前は「118.50-121.50円」であった想定レンジを「122.50-125.50円」にスライドさせて「下値で買い上値で売る」というのが、ミセス・ワタナベの最新の戦略と考えられる。(了)

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com